

## 奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

### ■基本情報

事業No	101	事業名	ファミリー・サポート・センター事業	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」が依頼・援助・両方のいずれかの会員として登録し、児童の放課後の預かりや保育所等の送迎等で育児の援助が必要となったときに、会員相互の援助活動を行います。			指標	ファミリー・サポート・センターの相互援助活動件数(件)	平成26年度実績値	5,707
	量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業						(10)子育て援助活動支援事業

### ■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 7,434 千円	(予算) 7,434 千円	(予算) 7,434 千円	(予算) 10,782 千円	(予算) 14,158 千円
	(決算) 7,429 千円	(決算) 7,419 千円	(決算) 7,418 千円	(決算) 9,149 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 7,050	(目標) 6,988	(目標) 6,902	(目標) 6,848	(目標) 6,932
	(実績) 6,183	(実績) 6,695	(実績) 6,682	(実績) 7,288	(実績) 千円
取組み内容・成果等	援助会員を増やすための広報を行うとともに、登録希望者への説明会・講習会及び登録会員のスキルアップ講座・交流会等を開催し、会員の情報交換と資質の向上を図ることにより、相互援助活動がスムーズかつ活発に行われるようサポートした。	学校・保育園等への送迎や、一時預かりなど会員による相互援助活動を行い、地域での子育ての仲間づくりや地域コミュニティの活性化を図った。	平日のみの開催であった会員登録のための説明会を毎月土曜日に開催し、利便性の向上につなげた。連絡会議に参加し、関係機関との連携に努めた。事務局のあるはぐくみセンターだけでなく、西部公民館でも説明会を開催した。	平成30年10月より多子世帯、ひとり親世帯、生活保護世帯等に対し、利用料の一部助成を開始し、子育て支援、少子化対策の推進を図ったとともに、既存の会員に対しても、相互援助活動がスムーズかつ活発に行われるようサポートした結果、活動件数が増加につながった。	
取組みの方向性(課題・改善点等)	積極的な広報活動の結果、会員数は年々増加しているが、依然として依頼会員に比べて、援助会員が少ない状況にある。このため、積極的な広報活動や援助を行いやすい環境づくりに引き続き取り組み、援助会員の増加を図る。	依然として、援助会員が少ない状況にあるため、積極的な広報活動や援助を行いやすい環境づくりに引き続き取り組み、援助会員及び両方会員の増加を図る。また、地域子育て支援拠点等の子育て支援団体及び民生児童委員等の地域の子育て支援者との交流・連携の強化を図り、地域における子育て支援を更に充実させていく。	平成30年10月から多子世帯、ひとり親世帯、生活保護世帯等に対し、利用料の一部を助成し、子育て支援、少子化対策を推進する。	今後も、当事業の利用料助成制度やエンゼルサポート事業の周知を積極的に行うとともに、引き続き、援助を行いやすい環境づくりに取り組む。また、地域の子育て支援団体及び支援者と連携の強化を図り、地域の子育て支援の更なる発展・充実につなげていく。	

### ■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	A	
子ども・子育て会議における意見等	<p>・No.66：公民館での各種教室・講座の開催などとリンクしながら事業を展開できる可能性はないかと思われる。</p> <p>・ファミリー・サポート・センター事業の援助会員不足は全国的な課題です。依頼会員は切実なニーズがあるので増えますが、援助会員はなかなか難しい。ファミサポの具体的な活動をより広報し、依頼者が助けられたことはもちろん、援助者のやりがい・笑顔なども広めることで援助者が増えるかもしれない。</p> <p>・子育て中の親を含めた援助会員、もしくは利用会員と援助会員の両方に登録する相互会員を増加させる等の改善に取り組んでいかれてはどうか。</p>	<p>・ファミリー・サポート・センター事業の援助会員が少ない状況とのことですが、地域には人材が眠っているようにも思われます。広報活動だけでなく、地域毎の取り組みの中でこうした事業の紹介や呼びかけをしていくことも必要かと思われれます。</p> <p>・援助会員No.61「地域子育て支援拠点事業」、No.62「子育てスポット事業」、No.63「子育てスポットすくすく事業」、No.64「市立こども園の地域活動の推進」の担い手からも積極的に募って、より一層促進していただきたいです。</p> <p>・「地域における子育て支援を更に充実させていく。」とあるが、地域で活動をしている、奈良市で把握できていないものがあるのかの調査が必要ではないか。</p> <p>・奈良市のホームページでは援助会員の具体的な活動の想像がつきにくような気がします。実際に利用していたり、援助されている方の声を前面に挙げていくとわかりやすいのではと思います。</p>	<p>「サポーターは、どんな人がいるのか？」初めての利用者にとって、サポーターとのマッチングの不安があると思います。</p> <p>サポーターと出会う場所として、子育てスポットで保育サポーターが活動する場所を設ける等して、「この人なら大丈夫。」「この人なら僕に任せよう」そんな安心感を利用者側が体感する場所が必要ではないでしょうか？</p> <p>また、万が一の事故の場合、奈良市がどの様な立場に立つて対応するのかを、はっきりさせておく事はサポーターにとっても利用者側にとっても必要な事だと思います。</p> <p>利用料の一部を助成する等、多様な利用者層を想定した取組を実践していると思います。送迎なども含め、利用者のニーズにあわせてさらなる促進の工夫をしていただけることを期待します。また、提供会員と利用会員の両方会員を増やす工夫を考え、相互扶助の仕組みができれば、子育て家庭のサポート体制が豊かになると考えます。</p>	<p>たくさん実績を上げていると感じました。</p> <p>ただ、HPで検索しましたが、実態がよくわかりません。例えば講習会も会場の案内はありませんが、どんな講座を受けると援助会員になれるのか？預ける側にすれば、どんな人がどんな研修を受けてその援助会員になっているのかを知りたいと思うのですが、その情報も見つけられませんでした。</p> <p>大切な子ども・命を預ける事業ですので、もっとわかりやすい情報提供をしてはどうでしょうか？会員数などもわかりませんでした。安心できる材料が欲しいと思います。</p>	

意見等に対する対応状況	<p>・公民館や地域子育て支援拠点等との連携・協働を図ることで、地域における子育て支援を更に充実させていきたい。</p> <p>・援助会員を増やすため、ホームページや奈良しみんだよりへの掲載、保育所・幼稚園や福祉センター等へのリーフレット配布などを行ったが、今後、具体的な事例を使った広報など、効果的な広報活動を検討する。</p> <p>・援助会員のみならず、両方会員の増加を図る取組も検討していきたい。</p>	<p>・地域毎の取り組みの中での事業の紹介については、公民館等を利用し、説明会の開催を計画している。</p> <p>・各種子育て支援関連事業の利用者向けの周知だけでなく、スタッフにも積極的に登録を呼びかける。</p> <p>・地域における子育て支援の活動については、ファミリー・サポート・センターだけでなく、地域子育て支援拠点事業としても情報の収集に努める。</p> <p>・今後、現在の広報誌を市のホームページに掲載し、新たに援助会員の活動を紹介したチラシを作成、掲示し、市のホームページにも掲載する。</p>	<p>・年に2回全体交流会を開催しており、どのような会員がいるか雰囲気を知ることができる機会となっている。また、初めての利用が不安な場合は慣らし利用を提案する等、安心して利用できるように事務局が努めている。</p> <p>・活動中に生じた事故は、会員間での解決を原則としているが、万一の事故に備えて、ファミリー・サポート・センター補償保険に一括して加入するものとし、当該保険料については市が負担するとしている。また、事業の実施主体は市であり、事故が起こった場合責任をもって円満な解決への尽力や事故防止や対処法の研修実施等を通して十分な対策に努めていく。</p> <p>・積極的な広報活動の結果、会員数は年々増加しているが、依然として依頼会員に比べ、援助会員が少ない状況にある。このため、積極的な広報活動や援助を行いやすい環境づくりに引き続き取り組み、援助会員の増加を図る。</p>	<p>ホームページの掲載内容を更新し、講習会・スキルアップ講座の内容例、会員数、活動内容とその利用実績等を新たに掲載した。</p> <p>引き続き、閲覧者にとってわかりやすく、利用者・利用希望者が安心できるような情報の提供に努める。</p>	
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A	A	A	A	
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—	—	—	—	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	102	事業名	子育て支援アドバイザー事業	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	子育て支援アドバイザーとして登録した地域の子育て経験豊かな市民を、乳幼児と保護者が集まる場所に派遣し、保護者の子育てに関する疑問や悩みに対する相談等を行います。			指標	子育て支援アドバイザーの派遣回数(回)	平成26年度実績値	533
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	1,224 千円	(予算)	1,224 千円	(予算)	1,224 千円	(予算)	1,224 千円	(予算)	1,224 千円
	(決算)	1,224 千円	(決算)	1,224 千円	(決算)	1,224 千円	(決算)	1,224 千円	(決算)	1,224 千円
目標値と実績値	(目標)	500	(目標)	500	(目標)	500	(目標)	500	(目標)	500
	(実績)	630	(実績)	552	(実績)	537	(実績)	500	(実績)	
取り組み内容・成果等	活動内容を3区分に分類し、依頼元のニーズに沿った派遣を行うことにより、派遣回数が増加している。また、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、子育て支援の経験豊富なスタッフが在籍する地域子育て支援拠点事業の実施団体に事業を委託している。		子育てサークル等の地域の子育て支援団体からの依頼により、子育て支援アドバイザーが乳幼児とその保護者が集まる場所に向き、子育てについての情報提供や育児相談、絵本の読み聞かせ、手遊び、親子体操等の遊びを伝えるなど、子育て支援を行った。		地域の子育て支援団体からの依頼により、子育て支援アドバイザーが乳幼児とその保護者が集まる場所に向き、子育て支援を行った。地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託することで、子育て支援の連携の強化と事業内容の充実につながった。		地域の子育て支援団体からの依頼により、子育て支援アドバイザーが乳幼児とその保護者が集まる場所に向き、子育て支援を行った。地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託することで、子育て支援の連携の強化と事業内容の充実につながった。			
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も引き続き、事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託し、事務の効率化及び事業内容の充実を図る。		引き続き、子育て支援アドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託することで、子育て支援に関する専門知識や経験豊富な拠点スタッフがアドバイザー業務に携わることとなり、子育て支援のさらなる連携の強化と事業内容の充実を図る。また、各地域子育て支援拠点等との連携・協働を図ること、地域における子育て支援を更に充実させていく。		引き続き、子育て支援のさらなる連携の強化と事業内容の充実を図る。		引き続き、子育て支援アドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託することで、子育て支援に関する専門知識や経験豊富な拠点スタッフがアドバイザー業務に携わることとなり、子育て支援のさらなる連携の強化と事業内容の充実を図る。また、各地域子育て支援拠点等との連携・協働を図ること、地域における子育て支援を更に充実させていく。			

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A	A	A	A	
子ども・子育て会議における意見等	<p>・No.66：公民館での各種教室・講座の開催などとリンクしながら事業を展開できる可能性はないかと思われる。</p>	<p>・事業を通して貧困家庭である可能性を探り、対策が可能になるのではないかと。そのためアドバイザーの人数増や各地の子育てサークルの活動掌握が必要である。</p> <p>・子育て支援アドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託することが大切である。子育て支援に関する専門知識や経験豊富な拠点スタッフがアドバイザー業務に携わること、子育て支援のさらなる連携の強化と事業内容の充実を図ることである。各地域子育て支援拠点等との連携・協働を図ること、地域における子育て支援を更に充実させていく必要がある。ただ、何を支援するのかは、時代と共に考えなければならぬのではないかと。本当に必要な人への支援となっているのかは考えねばならない。</p> <p>・事前面接や書類選考なしに希望する受講者全員が2日間の研修でアドバイザーの認定をされることに少し不安を感じています。たくさんのアドバイザーを養成されることは良いことですが、質の確保も支援をしていくためには大切だと思います。</p>	<p>昨年度の意見に「子育て支援アドバイザーが、事前面接や書類選考なしに希望する受講者全員が2日間の研修で、アドバイザーに認定される」事に不安を感じるとありますが、私もそう思います。</p> <p>子育てのアドバイスをする人は、自分の経験だけでなく、確固たる知識量と心理的なダメージを押し量れる、経験豊かな人材が必要だと思われます。アドバイザーは、数だけでなく、質を求めべき所だと思います。</p>	<p>子育て支援アドバイザーには、ママさんたちが自分たちで考え、自分で解決する力をつけるために傾聴のスキルアップ研修を研修に取り入れることを期待します。</p>	

意見等に対する対応状況	<p>既に、公民館から依頼を受けて、講座にアドバイザーが派遣され、活動を行っているケースが多数あるが、公民館のみならず、各地域子育て支援拠点等との連携・協働を図ることで、地域における子育て支援を更に充実させていきたい。</p>	<p>・市内各地域において、アドバイザーや子育てサークルも含めた地域の子育て支援関係者交流会を実施しており、アドバイザーが地域のサークルの活動を把握し、サークルのメンバーはアドバイザーを頼るという関係は出来ている。</p> <p>また、アドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託し、子育て支援に関する専門知識や経験豊富な拠点スタッフがアドバイザー業務に携わっている。</p> <p>その上で、アドバイザーへの、子どもの貧困や児童虐待に関する研修の実施等によりそのスキルアップを図り、各地域の子育て支援拠点等との連携・協働を密にすることで、本当に必要な人への支援へと繋げていきたい。</p> <p>・2日間の研修でアドバイザーを認定した後も、研修は継続して実施している。</p> <p>今後、研修の内容をより充実させるとともに、地域の子育て支援関係者との交流の機会を多く持つことにより、アドバイザーの質の確保を図ってきたい。</p>	<p>アドバイザー事業の委託先である地域子育て支援拠点のスタッフが子育て支援に関する専門知識や経験に基づいて派遣の調整を行っており、アドバイザーによって簡単な依頼で様子を見る、または派遣を見合わせることも行っている。また、アドバイザーは登録時に活動の種類（遊びの紹介、聞き役、見守り）に分けて登録し、適材適所への派遣に努めており、フォローアップ講座を開催し、質の向上にも努めている。</p>	<p>現在、アドバイザー養成講座において、コミュニケーションスキルの向上に関する研修を実施しており、当該研修に傾聴のスキルアップに係る内容が含まれている。</p> <p>今後も同様の研修を実施する予定があるため、引き続き子育て支援アドバイザーの傾聴スキルの向上を図っていく。</p>	
-------------	---	--	---	---	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A	A	A	A	
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—	—	—	—	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	103	事業名	子育てサークルの支援	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	地域で活動する子育てサークルに補助金を交付することにより、経済的に支援するとともに、サークルを含めた地域の子育て支援団体を対象にした交流会を行うことにより、情報交換等のネットワーク化を図り、子育て中の保護者が自主的に運営する子育てサークルを支援します。			指標	子育て支援交流会の開催回数(回)	平成26年度実績値	7
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	1,000 千円	(予算)	1,000 千円	(予算)	1,000 千円	(予算)	800 千円	(予算)	500 千円
	(決算)	812 千円	(決算)	631 千円	(決算)	469 千円	(決算)	388 千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	7	(目標)	7	(目標)	7	(目標)	7	(目標)	7
	(実績)	7	(実績)	7	(実績)	7	(実績)	7	(実績)	千円
取り組み内容・成果等	子育てサークルを含めた地域の子育て支援団体を対象に交流会を年間7回開催し、地域に根ざしたサークル支援を行うとともに、地域の子育て支援団体との交流を図った。併せて、活動の継続性を担保するため、子育てサークルに補助金を交付している。		財政的基盤が脆弱な子育てサークルの運営費の一部を補助することにより、地域で孤立しがちな子育て親子が参加できるふれあいと情報交換の場の確保に努めた。また、地域子育て支援拠点を中心として、地域の子育て支援のネットワーク化を図り、子育てサークルを支援した。		サークル運営補助金による経済的な支援を行った。「子育て支援交流会」等の各種交流会を実施した。地域子育て支援拠点が、サークルの運営等について相談を受け、活動の支援を行った。		サークル運営補助金による経済的な支援を行った。「子育て支援交流会」等の各種交流会を実施した。地域子育て支援拠点が、サークルの運営等について相談を受け、活動の支援を行った。また、地域子育て支援拠点を中心として、地域の子育て支援のネットワーク化を図り、子育てサークルを支援した。			
取り組みの方向性(課題・改善点等)	サークル運営補助金の交付による経済的な支援と併せ、地域子育て支援拠点や地域の子育て支援者を対象とした「子育て支援交流会」等の各種交流会を実施し、関係機関及び子育て支援者等の交流・連携の強化を図ることにより、地域で自主的に活動する「子育てサークル」を支援していく。		サークル運営補助金の交付による経済的な支援と併せ、地域子育て支援拠点や地域の子育て支援者を対象とした「子育て支援交流会」等の各種交流会を実施し、関係機関及び子育て支援者等の交流・連携の強化を図ることにより、地域で自主的に活動する「子育てサークル」を支援していく。		サークル運営補助金の交付による経済的な支援と併せ、地域子育て支援拠点や地域の子育て支援者を対象とした「子育て支援交流会」等の各種交流会を実施し、関係機関及び子育て支援者等の交流・連携の強化を図ることにより、地域で自主的に活動する「子育てサークル」を支援していく。		サークル運営補助金の交付による経済的な支援と併せ、地域子育て支援拠点や地域の子育て支援者を対象とした「子育て支援交流会」等の各種交流会を実施し、関係機関及び子育て支援者等の交流・連携の強化を図ることにより、地域で自主的に活動する「子育てサークル」を支援していく。			

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	A	B	
子ども・子育て会議における意見等	<p>・No.66：公民館での各種教室・講座の開催などとリンクしながら事業を展開できる可能性はないかと思われる。</p> <p>・子育てサークルは、親子で参加しやすいため、予算が増え開催回数が増える事は子育て中の世帯にとって望ましいと考える。</p>	<p>・事業を通して貧困家庭である可能性を探り、対策が可能になるのではないかと？そのためアドバイザーの人数増や各地の子育てサークルの活動掌握が必要である。</p> <p>・子育てサークルの方々への補助金は、活動促進につながるが、一方で活用方法についての知識が不足しているケースも多くみられる。単に補助金を交付するだけでなく、子育て支援のメニューを提供することも必要ではないかと思えます。</p>	<p>予算に対しての実績額が非常に少ないことが気になる。昨年度の回答で、サークルメンバーがアドバイザーを頼る構図ができてきているということであったが、実績額が増えないのに支援できていると言えるのか。</p> <p>また、平成30年度は予算が減少していることも、活動の抑制につながりかねないと考えます。</p> <p>「子育て中の保護者が自主的に運営する子育てサークル」を支援することを目標にされて、補助金を出されているとのことですが、子育て中の保護者が全員対象になっているのでしょうか。地域では「地域自治協議会」作りを進めています。これらの事業は協働事業とすることができないのではないかと考えます。</p>	<p>子育てサークルの数が減ってきている中で、サークル支援のあり方そのものの再検討が必要と考える。子育てサークルは、ママさんたちが自主的に開催することで、情報交換の場だけでなく、人材育成や地域活性の役割を持っている。情報交換やママたちのネットワークを作ることは、支援センターやスポット事業でも行われていることなので、子育てサークルのママさんたちの力を生かす場づくりという視点で、「子育てサークル」の定義を見直すべきと考える。</p>	

意見等に対する対応状況	<p>・公民館で開催しているサークルは多数あり、公民館祭りなどの公民館主催の行事を合同で行っているサークルもある。</p> <p>・今後、公民館のみならず、地域子育て支援拠点を中心として、地域の子育て支援のネットワーク化を図り、子育てサークルを支援していく。</p>	<p>・市内各地域において、アドバイザーや子育てサークルも含めた地域の子育て支援関係者交流会を実施しており、アドバイザーが地域のサークルの活動を把握し、サークルのメンバーはアドバイザーを頼るという関係は出来ている。</p> <p>今後、アドバイザーへの、子どもの貧困や児童虐待に関する研修の実施等によりそのスキルアップを図り、各地域の子育て支援拠点等との連携・協働を密にすることで、本当に必要な人への支援へと繋げていきたい。</p> <p>・地域子育て支援センターの地域支援活動が充実してきており、子育てサークルに対しても、サークル運営の助言や情報提供等を行っている。</p> <p>また、子育てサークルと、地域子育て支援拠点や地域の子育て支援者を対象とした「子育て支援交流会」を開催し、地域で子育てサークルを支援している。</p> <p>今後は、これらの支援をより充実させ、地域の子育て支援のネットワーク化を図ることにより、子育てサークルを支援していきたい。</p>	<p>・こども園の未就園児クラス、私立幼稚園の2歳児クラスなど市の子育て支援環境の変化により、サークルを廃止する団体が年々増えている。</p> <p>引き続き、市や地域子育て支援拠点によるサークルについての広報活動や情報提供、講師やアドバイザー派遣などの支援を継続したい。</p> <p>・補助金交付は要件を満たす子育てサークルのみが対象である。</p> <p>・「地域自治協議会」については、必要に応じて周知を検討していく。</p>	サークル数が減少していることから、予算の見直しを行うとともに、サークル支援の在り方についても検討する。	
-------------	---	--	---	---	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A	A	A	A	
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—	—	—	—	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	104	事業名	交通安全教室の開催	部名	—	課名	危機管理課
事業内容	学校園に向き、警察と協力して横断歩道の渡り方、正しい自転車の乗り方などの交通ルールをビデオ・人形劇等でわかりやすく説明するとともに、信号機を使った実技指導なども併せて行い、子どもたちに交通事故から身を守るすべを身につけてもらうために開催します。			指標	交通安全教室実施率 (%)	平成26年度実績値	53.2
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業		該当なし	

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 5,174 千円	(予算) 4,189 千円	(予算) 4,186 千円	(予算) 4,186 千円	(予算) 3,555 千円
	(決算) 5,112 千円	(決算) 4,181 千円	(決算) 4,167 千円	(決算) 3,650 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 63	(目標) 63	(目標) 63	(目標) 63	(目標) 63
	(実績) 62.1	(実績) 50.2	(実績) 70.8	(実績) 65.5	(実績)
取り組み内容・成果等	当該年度実施分について前年度末以降に各学校園からの要望をいただき、日程調整の上で、所轄警察署と連携し、交通安全教室を実施している。27年度については要望のあった学校園全てで実施することができた。	当該年度実施分について前年度末以降に各学校園からの要望をいただき、日程調整の上で、所轄警察署と連携し、交通安全教室を実施している。28年度については要望のあった学校園全てで実施することができた。	当該年度実施分について前年度末以降に各学校園からの要望をいただき、日程調整の上で、所轄警察署と連携し、交通安全教室を実施している。29年度については目標値以上の学校園で実施することができた。	当該年度実施分について前年度末までと同様の方式で受付を行い、所轄警察署と連携し、交通安全教室を実施している。30年度については目標値以上の学校園で実施することができたが、猛暑で、学校園の行事が変更になり、教室の中止が相次いだため。	
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も引き続き、決め細やかな交通安全教室の実施に向け取り組んで行く。 平成27年6月の法改正により、一層正しい運転が定められた自転車の乗り方やルール指導、横断歩道や交差点での歩行指導、教員や保護者に対する立哨指導	今後も引き続き、決め細やかな交通安全教室の実施に向け取り組んで行く。 平成27年6月の法改正により、一層正しい運転が定められた自転車の乗り方やルール指導、横断歩道や交差点での歩行指導、教員や保護者に対する立哨指導	最新の法改正の内容等を取り込みながら、子どもにもわかりやすい交通安全教室の実施に向け取り組んで行く。 自転車の乗り方や点検整備方法、ルール指導、横断歩道や交差点、踏切等での歩行指導、教員や保護者に対する立哨指導	最新の法改正の内容等を取り込みながら、子どもにもわかりやすい交通安全教室の実施に向け取り組んで行く。子どもと関わりがあると思われる高齢者向けの交通安全教室にも取り組んでいく。 自転車の乗り方や点検整備方法、ルール指導、横断歩道や交差点、踏切等での歩行指導、教員や保護者に対する立哨指導	

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	A	
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事件があった時には関心が高くなるが、しばらくすると忘れられる。定期的な広報活動が必要である。</li> <li>・何が安心・安全かという議論において、子どもの気持ちや意見を聴く(子ども参加)、子どもの居場所を奪わない、自分で防ぐ力を育む、そのための適切な情報提供をするという視点も大切にしていきたい。</li> <li>・自転車の事故が増加し、ますます自転車のルールやマナーなどが求められているので、子どもたちに知識を身に付けさせる機会を重要で、積極的な実施をお願いしたい。</li> <li>・法改正に対応するきめ細やかな安全教室の引き続きの実施(内容)とともに、未実施の学校園への実施についても検討いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの安全は危機といえる。大人が信用できない、地域が信用できないことが多く、セイフティーネットがかげにくいといえる。</li> <li>・事業の充実度が、その地域の安全性・快適性に繋がっていると考えます。ハード&amp;ソフト(支援、教室開催)等 充実度UPの推進をお願い致します。</li> <li>・子どもの交通安全に対する意識は日常の声掛けが必要で家庭によるところも大きい。大人自体がルールを守っていない現状もあり、交通安全教室に大人も参加していくような工夫も必要かと思えます。</li> <li>・子供たちの交通事故の減少を図るため、実施率向上に向け取り組んでいただきたい。特に自転車の乗り方やルールの指導を徹底してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所轄警察署との連携により、目標を上回る交通安全教室の実施をしていただいたことは高く評価できる。</li> <li>自転車の乗り方やルールの指導については、特に一人で出かけることが増えてくる小学生を中心に引き続き徹底してほしい。</li> <li>また、通学時の交通事故も後を絶たないため、交通安全教室の範囲ではないが、既存の通学路の安全性確認も所轄警察署と連携して合わせて行っていただきたい。</li> </ul>	—	
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種行事やしみんだより、ホームページ等を活用し、広報活動を展開する。</li> <li>・子どもが自ら安全を確保する力を育てるため、年々変動する交通状況に即した交通安全教室を実施していく。実施校を増やすべく、開催案内の内容等を検討したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室の実施、交通安全指導員による登下校時の立哨等、地域全体への交通安全支援の充実を図る。</li> <li>・学校園で実施する交通安全教室は日程上大人の参加が難しい。交通安全運動期間の休日に実施する交通安全イベント等で全世代ヘルールの周知を図りたい。</li> <li>・引き続き自転車の乗り方やルールの指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の乗り方やルールの指導については、引き続き交通安全教室や啓発活動を通じて周知を行っていく。</li> <li>・通学路安全推進協議会や通学路安全点検等を通じて通学路の安全を確保していく。</li> </ul>	—	

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A	A	A	A	
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A	A	A	A	
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A	A	A	A	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	105	事業名	学校・家庭・地域が連携した防犯力の充実	部名	教育部	課名	いじめ防止生徒指導課
事業内容	「子ども安全の日の集い」を開催する等、子どもの安全に取り組む大人の防犯意識を高めます。			指標	「子ども安全の日の集い」参加人数(人)	平成26年度実績値	291
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	予算・決算額	(予算) 122 千円	(決算) 43 千円	(予算) 1,302 千円	(決算) 1,283 千円	(予算) 1,497 千円	(決算) 1,492 千円	(予算) 2,996 千円	(決算) 2,504 千円	(予算) 1,182 千円
目標値と実績値	(目標) 300	(実績) 320	(目標) 300	(実績) 330	(目標) 300	(実績) 315	(目標) 300	(実績) 300	(目標) 300	(実績) 千円
	<p>平成27年度は、「子ども安全の日の集い」に子どもの安全に関わる大人と、市内の小中高校生の代表ら、併せて320名が参加した。「私達の安全の取組」というテーマでパネルディスカッションを実施し、実効性のある取組を提案した。また、職員による青色防犯パトロールを、毎月17日、始業式及び終業式に実施した。(延べ88回、176人)</p>		<p>平成28年度は、「子ども安全の日の集い」に子どもの安全に関わる大人と、市内の小中高校生の代表ら、併せて330名が参加した。「地域の安全を守る」ことについて実効性のある取組を提案した。また、職員による青色防犯パトロールを、毎月17日、始業式及び終業式に、延べ88回実施した。</p>		<p>平成29年度は、「子ども安全の日の集い」に子どもの安全に関わる大人と、市内の小中高校生の代表ら、併せて315名が参加した。「地域の安全を守る」ことについて実効性のある取組を提案した。また、職員による青色防犯パトロールを、毎月17日、始業式及び終業式に、延べ85回実施した。</p>		<p>平成30年度は、「子ども安全の日の集い」に学校関係者や保護者など、子どもの安全に関わる大人ら、併せて300名が参加した。「地域の安全を守る」ことについて実効性のある取組を提案した。また、職員による青色防犯パトロールを、毎月17日、始業式及び終業式に、延べ85回実施した。</p>			
取り組みの方向性(課題・改善点等)	<p>奈良市で発生した小1女児殺害事件の風化させないよう、子どもを守る大人の意識を高め、維持するために、時宜にあった「子ども安全の日の集い」を開催する必要がある。また、「なら子ども安全宣言」の発表を受け、実効性のある取組を進めていく。見守り活動の継続については、次世代の担い手確保という課題があり、より多くの大人の協力が得られるよう取組を進めていく必要がある。</p>		<p>奈良市で発生した小1女児殺害事件の風化させないよう、子どもを守る大人の意識を高め、維持するために、時宜にあった「子ども安全の日の集い」を開催する必要がある。また、「なら子ども安全宣言」の発表を受け、実効性のある取組を継続して進め、平時からの備えを身に付ける。見守り活動の継続については、次世代の担い手確保という課題があり、より多くの大人の協力が得られるよう取組を進めていく必要がある。</p>		<p>奈良市で発生した小1女児殺害事件の風化させないよう、子どもを守る大人の意識を高め、維持するために、時宜にあった「子ども安全の日の集い」を開催する必要がある。また、「なら子ども安全宣言」の発表を受け、平時からの備えを身に付け実効性のある取組を継続して進める。次世代の担い手確保という課題がありことから、たくさん大人の協力が得られるよう取り組む。</p>		<p>奈良市で発生した小1女児殺害事件を風化させないよう、子どもを守る大人の意識を高め、維持するために、時宜にあった「子ども安全の日の集い」を開催する必要がある。また、「地域安全マップ」の作成等を通じ、子どもに危険予測、危険回避能力を身につけさせる実践的な防犯教育を推進し、平時からの備えを身に付け実効性のある取組を継続して進める。次世代の担い手確保という課題があることから、たくさん大人の協力が得られるよう取り組む。</p>			

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	B	
	<p>・事件があった時には関心が高くなるが、しばらくすると忘れられる。定期的な広報活動が必要である。</p> <p>・何が安心・安全かという議論において、子どもの気持ちや意見を聴く(子ども参加)、子どもの居場所を奪わない、自分で防ぐ力を育む、そのための適切な情報提供をするという視点も大切にしていきたい。</p> <p>・大会参加人数も重要であるが、子どもの安全と確保するには地域の方々の協力は不可欠であり、次世代の担い手の確保に努めてもらいたい。また、子どもたちを地域で見守るという体勢は重要であり、広く周知してもらうための計画が必要</p>	<p>・子どもの安全は危機といえる。大人が信用できない、地域が信用できないことが多く、セイフティーネットがかけにくいといえる。</p> <p>・事業の充実度が、その地域の安全性・快適性に繋がっていると考えます。ハード&amp;ソフト(支援、教室開催)等 充実度UPの推進をお願い致します。</p> <p>・ここに子どもを守るための防災・減災の項目があれば良いと思います。</p> <p>・防犯に関わっては、子ども自身の意識・知識の習得、地域の人材を活用した、家庭・学校園・地域・市の連携が重要である。子どもを中心に据えた、各者、関連機関の一層の連携</p>	<p>子ども安全の日の集いを、参加者だけの学びの場にせず、より多くの児童保護者の啓発に効果が出る事業にされるよう期待したい。</p> <p>事業内容が、「子どもの安全に取り組む大人の防犯意識を高めます」となっていますが、その評価指標が「子ども安全の日の集い」参加人数(人)」で行われています。</p> <p>地域では、子供の登下校の見守り活動(立哨含む)、巡視活動、青色パトロール、を行っていますが、少年指導協議会・駅前交番活動・交通安全指導委員・地域安全指導員等々学校との連携は取れていません。それぞれの団体が、防犯の</p>		

<p>子ども・子育て会議 における意見等</p>	<p>である。</p>	<p>を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども安全の日の集いの参加人数は毎年目標達成していますが、見守り活動の次世代の担い手確保という課題からは、新たな目標設定が必要と感じます。</li> <li>・「学校・家庭・地域が連携した防犯力の充実」と「指標」を「子ども安全の日の集い」参加人数としているのは評価を矮小化させてしまうのではないかと。指標を「事業の実施件数及び参加人数」にしてはどうか。</li> <li>・「防犯力の充実」を目指すのであれば地域で実施されている活動数や事業内容の数を評価対象としてその団体数や事業内容数の増加を図るべきではないかと。また、「地域」とは何を指すのか。</li> </ul>	<p>取組をしていても連携・協力ができていないと思います。学校教育部が「学校・家庭・地域が連携した防犯力の充実」を図ろうとするのであれば、「子供安全の日の集い」に集う人数を評価指標とするのではなく、地域で子供達のために活動する団体数や、活動内容を把握して、その連携・協力事業数を評価対象とすべきではないかと考えます。</p>	<p>—</p>	
<p>意見等に対する対応状況</p>	<p>学校、保護者、地域、行政が一体となり、子どもの安全を守る意識を高めると同時に、子ども自身が自らの安全を守る力を高めるための取組を一層充実させる。</p>	<p>市内21中学校区にそれぞれ設置されている少年指導協議会の定例会において、子どもたちの現状や様子等について情報交換をし、学校、保護者、地域、行政が一体となり子どもの安全確保を図る。</p>	<p>次年度は、PTAや地域の方々も含めた参加型の「子ども安全の日の集い」を計画し、各小学校区での取組につなげたいと考えている。また、いじめ防止生徒指導課で、見守りボランティアの方々の課題や状況を把握するアンケート等の実施を計画している。</p>	<p>—</p>	

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A	A	A	A	
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A	A	A	A	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	106	事業名	不審者情報の配信	部名	教育部	課名	いじめ防止生徒指導課
事業内容	子どもたちの登下校時の安全確保のために、警察と連携して、学校園や地域から入ってくる不審者の情報を「なら子どもサポートネット」登録者に配信します。			指標	「なら子どもサポートネット」登録者数(人)	平成26年度実績値	25,635
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 260 千円	(予算) 368 千円	(予算) 451 千円	(予算) 600 千円	(予算) 1,243 千円
	(決算) 98 千円	(決算) 303 千円	(決算) 391 千円	(決算) 103 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 25,000	(目標) 25,000	(目標) 25,000	(目標) 25,000	(目標) 25,000
	(実績) 25,150	(実績) 25,369	(実績) 23,037	(実績) 16,465	(実績) 千円
取り組み内容・成果等	平成27年度の登録者数(保護者、地域、関係機関等)は25,150人であり、正確な情報確認と配信に努め、市内における子どもの安全安心情報の提供ができた。 不審者情報の配信は、平成23年度24件、平成24年度17件、平成25年度10件、平成26年度8件、平成27年度9件であった。また、学校ごとの安全安心情報配信は、平成23年度1,313件、平成24年度1,028件、平成25年度1,309件、平成26年度976件、平成27年度1,059件であった。	平成28年度の登録者数(保護者、地域、関係機関等)は25,369人であり、正確な情報確認と配信に努め、市内における子どもの安全安心情報の提供ができた。 不審者情報の配信は、平成25年度10件、平成26年度8件、平成27年度9件、平成28年度7件であった。また、学校ごとの安全安心情報配信は、平成25年度1,309件、平成26年度976件、平成27年度1,059件、平成28年度1112件であった。	平成29年度の登録者数(保護者、地域、関係機関等)は23,037人であり、正確な情報確認と配信に努め、市内における子どもの安全安心情報の提供ができた。 不審者情報の配信は、平成27年度9件、平成28年度7件、平成29年度11件であった。また、学校ごとの安全安心情報配信は、平成27年度1,059件、平成28年度1,112件、平成29年度は1,162件であった。	平成30年度の登録者数(保護者、地域、関係機関等)は16,465人であり、正確な情報確認と配信に努め、市内における子どもの安全安心に関する情報の提供をすることができた。 不審者情報の配信は、平成28年度7件、平成29年度11件、平成30年度4件であった。また、学校ごとの安全安心に関する情報配信は、平成28年度1,112件、平成29年度1,162件、平成30年度は、1,163件であった。	
取り組みの方向性(課題・改善点等)	不審者情報や子どもの安全安心情報については、保護者や市民のニーズが高く、「なら子どもサポートネット」の今後の安定した運営と、登録者を増やすために、「ならしみんだより」への掲載や登録案内配布等の啓発活動が必要である。また、「ナボくんメール」等の安全情報を発信している他の関係機関(奈良県警)と情報共有を図ることも重要である。	不審者情報や子どもの安全安心情報については、保護者や市民のニーズが高く、「なら子どもサポートネット」の今後の安定した運営と、登録者を増やすために、「ならしみんだより」への掲載や登録案内配布等の啓発活動が必要である。また、「ナボくんメール」等の安全情報を発信している他の関係機関(奈良県警)と情報共有を図ることも重要である。	不審者情報や子どもの安全安心情報については、保護者や市民のニーズが高く、迅速で正確な情報提供が求められる。「なら子どもサポートネット」の登録案内配布等の啓発活動を進めるとともに、「ナボくんメール」等の安全情報を発信している他の関係機関(奈良県警)と情報共有を図ることも重要である。また、今後の安定した運用に向けたシステム更新に関する検討を進める必要がある。	不審者情報や子どもの安全安心に関する情報については、保護者や市民のニーズが高い。「なら子どもサポートネット」をクラウド化することで、より迅速かつ正確な情報配信を行う。「なら子どもサポートネット」の登録案内の配布等の啓発を進め、「ナボくんメール」等の安全情報を発信している関係機関との情報共有を図ることも重要である。	

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	B	
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事件があった時には関心が高くなるが、しばらくすると忘れられる。定期的な広報活動が必要である。</li> <li>・何が安心・安全かという議論において、子どもの気持ちや意見を聴く(子ども参加)、子どもの居場所を奪わない、自分で防ぐ力を育む、そのための適切な情報提供をするという視点も大切にしていきたい。</li> <li>・広報活動を通じて登録者数の増加を引き続き図っていただきたい。また、「ナボくんメール」との情報共有はもちろんであるが、統合についても検討いただきたい。</li> <li>・子どもたちを地域で見守るという体勢は重要であり、広く周知してもらおうための計画が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの安全は危機といえる。大人が信用できない、地域が信用できないことが多く、セイフティーネットがかげにくいといえる。</li> <li>・事業の充実度が、その地域の安全性・快適性に繋がっていると考えます。ハード&amp;ソフト(支援、教室開催)等 充実度UPの推進をお願い致します。</li> <li>・防犯に関わっては、子ども自身の意識・知識の習得、地域の人材を活用した、家庭・学校園・地域・市の連携が重要である。子どもを中心に据えた、各者、関連機関の一層の連携を期待する。</li> <li>・サポートネット登録者数は目標を達成しておりA評価でも良いように思います。もしくは目標値の設定を保護者世帯の何%とする方が分かりやすいという気もします。</li> </ul>	—	—	

意見等に対する対応状況	サポートネットの登録については、各学校から保護者、地域へ周知し、奈良市HPへの掲載、その他様々な場面で呼びかけを行っている。今後も継続して周知していきたい。	学校、保護者、地域、行政が一体となり、子どもの安全確保についての取組の強化を図る。	—	—	
-------------	--	---	---	---	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A	A	A	A	
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C	C	—	—	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	107	事業名	「子ども安全の家」標旗配布	部名	教育部	課名	いじめ防止生徒指導課
事業内容	子どもを犯罪や事故から守るため、地域の家庭などに「子ども安全の家」になってもらい、家の入口などに「安全の家」標旗を掲げ、子どもが危険を感じた時に、助けを求めて駆け込める場所を提供してもらい、地域で子どもを守る機運を広めます。			指標	「安全の家」標旗 延設置件数(件)	平成26年度 実績値	4,866
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 184 千円	(予算) 206 千円	(予算) 432 千円	(予算) 324 千円	(予算) 389 千円
	(決算) 184 千円	(決算) 180 千円	(決算) 383 千円	(決算) 389 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 5,000	(目標) 5,000	(目標) 5,000	(目標) 5,000	(目標) 5,000
	(実績) 4,812	(実績) 4,537	(実績) 4,561	(実績) 4,404	(実績) 千円
取り組み内容・成果等	子どもを犯罪や事故から守るため、地域の家庭などに「子ども安全の家」になってもらい、家の入口などに「安全の家」標旗を掲げ、子どもが危険を感じた時に、助けを求めて駆け込める場所を提供してもらい、地域で子どもを守る機運を広めている。 平成27年度、4,812件の家庭に標旗を設置していただいている。	子どもを犯罪や事故から守るため、地域の家庭などに「子ども安全の家」になってもらい、家の入口などに「安全の家」標旗を掲げ、子どもが危険を感じた時に、助けを求めて駆け込める場所を提供してもらい、地域で子どもを守る機運を広めている。 平成28年度、4,537件の家庭に標旗を設置していただいている。 全小学校へ、「子ども安全の家」標旗の設置場所を把握するための取組を推進している。	子どもを犯罪や事故から守るため、地域の家庭などに「子ども安全の家」になってもらい、家の入口などに「安全の家」標旗を掲げ、子どもが危険を感じた時に、助けを求めて駆け込める場所を提供してもらい、地域で子どもを守る機運を広めている。 平成29年度、4,561件の家庭に標旗を設置していただいている。 全小学校へ、「子ども安全の家」標旗の設置場所を把握するための取組を進めている。	子どもを犯罪や事故から守るため、地域の家庭などに「子ども安全の家」になってもらい、家の入口などに「安全の家」標旗を掲げ、子どもが危険を感じた時に、助けを求めて駆け込める場所を提供してもらい、地域で子どもを守る機運を広めている。 平成30年度、4,404件の家庭に標旗を設置していただいている。 全小学校へ、「子ども安全の家」標旗の設置場所を把握するための取組を進めている。	
取り組みの方向性(課題・改善点等)	「子ども安全の家」標旗は、家の入口など目立つ場所に設置していただいているが、子どもたちが、校区の中どこに設置されているのかを把握できていないこともあり、標旗設置場所を把握できるような取組を実施している小学校もある。今後、そのような取組を奈良市の各学校へ広めていきたい。	「子ども安全の家」標旗は、家の入口など目立つ場所に設置していただいているが、子どもたちが、校区の中どこに設置されているのかを把握できていないこともあり、標旗設置場所を把握できるような取組を実施している小学校もある。さらに、そのような取組を奈良市の各学校へ広めていきたい。 全小学校において、「子ども安全の家」標旗の設置場所を把握するための取組を推進する必要がある。	「子ども安全の家」標旗は、家の入口など目立つ場所に設置していただいているが、子どもたちが、校区の中どこに設置されているのかを把握できていないという課題がある。このことから、全ての小学校において、「子ども安全の家」標旗の設置場所を把握するための取組を推進する必要がある。	「子ども安全の家」標旗は、家の入口など目立つ場所に設置していただいているが、子どもたちが、校区の中どこに設置されているのかを把握できていないという課題がある。このことから、全ての小学校において、「子ども安全の家」標旗の設置場所を把握するための取組を推進する必要がある。	

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	B	
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事件があった時には関心が高くなるが、しばらくすると忘れられる。定期的な広報活動が必要である。</li> <li>・何が安心・安全かという議論において、子どもの気持ちや意見を聴く(子ども参加)、子どもの居場所を奪わない、自分で防ぐ力を育む、そのための適切な情報提供をするという視点も大切にしていきたい。</li> <li>・子どもたちが瞬時に気付ける標旗を検討してはどうか。</li> <li>・全小学校において、「子ども安全の家」の設置場所を把握するための取り組みを推進された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの安全は危機といえる。大人が信用できない、地域が信用できないことが多く、セーフティネットがかけていくといえる。</li> <li>・事業の充実度が、その地域の安全性・快適性に繋がっていると考えます。ハード&amp;ソフト(支援、教室開催)等 充実度UPの推進をお願い致します。</li> <li>・防犯に関わっては、子ども自身の意識・知識の習得、地域の人材を活用した、家庭・学校園・地域・市の連携が重要である。子どもを中心に据えた、各者、関連機関の一層の連携を期待する。</li> <li>・子ども安全の家の旗は設置しているものの、特に店舗等では経営者が変わっている等の理由で、子ども安全の家であることの認識もないケースもあります。一定期的にそうした確認をして回る必要もあるかと思えます。</li> <li>・子ども安全の家については、そこに設置されていることで防犯効果が得られるような取り組みが必要ではないかと思えます。そのためにも、子ども安全の家の事業を大きく啓発していく必要があるかと思えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子ども安全の家」の標旗をつけて下さっているお家を見かけますが、その家にどんな人が住んでいるのかは、保護者である私も知らないままです。何かトラブルが生じた時、知らない人の家に本当に、逃げ込む事ができるのでしょうか。安全と書かれていても、ためらうのが普通ではないでしょうか。できれば、「子ども安全の家」の方と交流したり紹介する場を設けて欲しいと思います。</li> <li>確かに旗は見かけるが、いざというときにどうやって中の人に知らせるかなど、子どもがわかっているなければ、有効な対策とは言えないと思う。各小学校で、児童の通学路と安全の家の位置を確認し、子どもたちにいざという時にどうすればよいかをしっかりと伝えておかなければ事業の意味がないと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安全の家」が留守であれば、その家は何の意味も持たないのでは?と疑問に思いますが、商業施設が少ない場所では特に、この旗が機能している事例はあるのでしょうか?他の地域では、犬の散歩をしている人に見守り隊のタスキ掛けをしてもらっている場所もありました。より具体的な安全策が施行される事を望んでいます。</li> </ul>	

		・「子ども安全の家」の標旗の設置場所を各学校で必ず子どもたちに確認させることを義務化してはどうだろうか。手間や時間はかかるが、子どもたちの安全を守るためには必要であるし、見守る大人にとっても責任を果たすために大切かと思う。			
意見等に対する対応状況	全小学校において、子ども達が「子ども安全の家」の設置場所を把握できる取組の推進を図る。	全小学校において、子ども達が「子ども安全の家」の設置場所を把握できる取組の推進を図る。	「子ども安全の家」の方々の協力を得て、「子ども安全の家」を回るスタンプラリーを実施したり、親子で地域の危険箇所を調べて、地域の見守りボランティアやPTAの方々と一緒に安全マップづくりを行う取組などを実施する小学校もあり、こうした取組の市内小学校への周知・交流を図る。	多くの家が「子ども安全の家」標旗を掲げることで一定の抑止効果があると考えている。一方で旗の返納や設置民家の精選、啓発活動を行うなど、より効果的なものとなるよう取組の推進を図るとともに、「ながら見守り」などの安全策についても推進を図る。	

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B	B	B	B	
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B	B	B	B	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	108	事業名	イクメン手帳の配付	部名	市民部	課名	男女共同参画課
事業内容	奈良市オリジナルのイクメン手帳「IKUMEN HANDBOOK for nara papa」を母子健康手帳交付者及び子育て中の希望者に配布します。			指標	イクメン手帳配布部数(部)	平成26年度実績値	3,111
	量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業						該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 408 千円	(予算) 341 千円	(予算) 341 千円	(予算) 303 千円	(予算) 297 千円
	(決算) 394 千円	(決算) 292 千円	(決算) 292 千円	(決算) 254 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 2,900	(目標) 2,950	(目標) 3,000	(目標) 3,050	(目標) 3,100
	(実績) 2,782	(実績) 2,808	(実績) 2,583	(実績) 3,495	(実績)
取り組み内容・成果等	出産や育児に関し、父親として知っておきたい情報をまとめた「パパのための育児ハンドブック」を母子手帳と共に配布している。また、希望者にも配布できるように各出張所や行政センターへの配置、市ホームページでの内容公開を行っている。さらに、子育てイベントでの配布や子育て世代が利用する施設への配置も行っている。	出産や育児に関し、父親として知っておきたい情報をまとめた「パパのための育児ハンドブック」を母子手帳と共に配布している。また、希望者にも配布できるように各出張所や行政センターへの配置、市ホームページでの内容公開を行っている。さらに、子育てイベントでの配布や子育て世代が利用する施設への配置も行っている。	出産や育児に関し、父親として知っておきたい情報をまとめた「イクメンハンドブック」を母子手帳と共に配布している。また、希望者にも各出張所や行政センター、子育てイベントでの内容公開を行っている。今年度は前年より比イベントでの配布の機会が減少したため、実績が前年を下回った。	出産や育児に関し、父親として知っておきたい情報をまとめた「イクメンハンドブック」を母子手帳と共に配布している。また、各出張所や行政センター、子育てイベントにおいて希望者に配布している他、市ホームページでも公開しダウンロードが可能である。今年度は従来の子ども育成課に加えて保育所・幼稚園と市民課の窓口にも配置依頼し、配布部数が増えた。	出産や育児に関し、父親として知っておきたい情報をまとめた「イクメンハンドブック」を母子手帳と共に配布している。また、各出張所や行政センター、子育てイベントにおいて希望者に配布している他、市ホームページでも公開しダウンロードが可能である。今年度も引き続き周知に努めていく。
取り組みの方向性(課題・改善点等)	子育て支援に関わる研修会において、各窓口及び相談者に手に取ってもらえるよう、新たに配布を行った。今後も必要としている方に情報を届けることができるようイベント等での配布を行っていく。	引き続き子育て支援に関わる研修会において、各窓口及び相談者に手に取ってもらえるよう配布を行う。また、必要としている方に情報を届けることができるようイベント等での配布を行っていく。	母子手帳との配布に加え、各出張所や行政センター、子育てイベントで引き続き配布を行っていく。また、より多くの子育て中の方に手に取って頂けるよう、保育所・幼稚園課や子ども育成課など手続課の窓口での配布も行っていく。	引き続き各窓口への配布や子育てイベント、子育て支援に関わる研修会等において子育て世代に周知していくなど子育てに関する情報の発信に努める。	庁内外各窓口への配布や子育てイベント、子育て支援に関わる研修会等において子育て世代に向けた情報発信に努めていく。

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C	C	C	B	
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>イクメン手帳も必要だが、イクボスの育成がないとイクメンの道は難しい。まずは、年配者の意識改革が必要である。</li> <li>イクメン手帳は毎年見直しなが病院など各機関に置いて配布してもらえればと思う。今後の事業展開に期待する。</li> <li>もっと父親に直接手に渡るように配布できると良いのではないかと。</li> <li>意識の高い人だけではなく、子育てへの参加意識の薄い人、本当に居たい人へ配布するため、保育所等を通じた全戸配布も検討されてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イクメン手帳配布機会をもっと増やし、できるだけ多くの方に届けてほしいと思う。</li> <li>イクメン手帳の存在を周知できるように工夫が必要かと思えます。</li> <li>未来の父親である高校生・大学生など、学生への配布をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性の育児参加、家事分担はありがたい事ですが、結婚後に起こる「産後クライシス」。女性ホルモンの変化による、母親の精神状態の不安定な状況を知らないままでは、子育てを初めてする夫婦にとって、マイナス要因になると思われます。</li> <li>男性の積極的な育児参加を求めるのであれば、女性の産後の精神と女性ホルモンの状態を知る必要性があると思えます。母親教室は赤ちゃんに主眼を置いていますが、出産後、夫婦の関係には変化が訪れます。これからは、産後の夫婦の関係性に主眼を置いた新しい講座や講義も必要だと思います。</li> <li>乳幼児に関する仕事をしている場所に、啓発のために見本として配布していただけたらありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配付数の増加はとてもすばらしく、引き続き配付に取り組んでください。</li> <li>ただ、配付するだけで終わるのではなく、No.44の親子健康教室とも連携し、掲載されている内容をしっかりと伝える機会もつくってもらえるとよいと思います。</li> </ul>	
意見等に対する対応状況	イクメン手帳は母子手帳発行時に配布しているため、奈良市在住の子育て世代には行き渡っている。しかし、新しい情報の掲載を含め、また子育てに関わりを持つ中でイクメン手帳の必要性を感じる多くの方に知ってもらえるよう配布場所を検討する。父親の視点から働き方改革を支援することも大切なことから企業への啓発を行い仕事と育児の両立がしやすいイクボスをはじめとした職場環境整備の提案を検討していく。	平成28年度は母子手帳発行時の他、子育てイベントでの配布や子育て関連部署、労働局(マザーズコーナー)への配置等を行うことでイクメン手帳を手に取ってもらえる機会を増やすことに努めた。今後も頂いたご意見を参考に配布の機会や配置場所を検討し、より多くの方に手帳を手に取ってもらえるよう努めていきたい。	イクメンハンドブックでも産後の母親の状態とそれに対して父親ができる事を掲載することで、産後の夫婦関係の変化に対応できるよう啓発を行っている。今後は頂いたご意見を参考に、産後の子育て世代の夫婦関係に着目した啓発を検討していく。イクメンハンドブックの配布については平成30年度より新たに市民課と保育所・幼稚園課の窓口へ配置を行っている。更なる周知のため、保育所や子ども園へ見本の配布も検討していきたい。	イクメンハンドブックには母親と父親が協力して子育てするための情報を掲載しているが、引き続き子育て世代に向けた啓発をし、更なる周知を図るため庁内外への配布とイベント等での配布に努めていきたい。	

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	B	
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか					
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C	C	C	-	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	109	事業名	仕事と生活の調和推進事業	部名	観光経済部	課名	産業政策課
事業内容	事業主や企業を対象に、育児休業の取得促進や労働時間等の改善など、仕事と生活の調和のとれた働き方に向けた意識啓発に努めます。			指標	ワークライフバランスに関する企業向け講座回数	平成26年度実績値	
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 586 千円	(予算) 500 千円	(予算) 500 千円
	(決算) 0 千円	(決算) 0 千円	(決算) 505 千円	(決算) 491 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標)	(目標)	(目標) 4	(目標) 3	(目標) 3
	(実績)	(実績)	(実績) 3	(実績) 3	(実績)
取り組み内容・成果等	事業主や企業を対象に、育児休業の取得促進や労働時間等の改善など、仕事と生活の調和のとれた働き方に向けた意識啓発を行うため、「労政の手引」等を通じて、情報提供を行う。	平成28年3月の法改正の内容を盛り込み、事業主や企業を対象に、育児休業の取得促進や労働時間等の改善など、仕事と生活の調和のとれた働き方に向けた意識啓発を行うため、「労政の手引」等を通じて、情報提供を行った。	企業内でワークライフバランスを推進するリーダー育成の講座を開催(全4回)。企業の人事・採用担当者を対象とした。講座内において各企業がアクションプランを策定し、講座終了後、アクションプラン推進のためフォローアップを実施。	企業の採用担当者を対象にセミナーを実施(1回)。企業の取組事例の紹介や参加者同士の意見交換に加え、2019年より働き方改革法が順次施行される事を踏まえ、各職場での労働環境を再確認する内容も取り入れた。講座終了後は、参加企業の各課題をヒアリングし、専門家による個別フォローアップを実施。	
取り組みの方向性(課題・改善点等)	仕事と生活の調和を推進するため、様々な施策が存在しているが、一般に広く知られていない状態にある。また、国等の機構改革や制度改正が行われるため、継続して、WEBでの発信が望まれる。	平成29年3月に働き方改革実行計画が決定されるなど、働き方に対する見直しが進んでいる。今後も、制度改革の状況を注視しながら、継続して、WEBでの情報発信が望まれる。	講座では各社の現状を把握し意見・情報交換を通じ、アクションプランを作成した。その後専門家の個別訪問によるフォローアップを実施した。企業同士の意見交換によるモチベーションの維持や新たな発見に繋がったという参加者からの声もあり継続して推進していくことが必要である。13社の企業が講座に参加。3社の企業訪問(各3回)を実施した。重要性は認識しているものの数値にすぐに繋がるものではないため、参加	講座では、働きがいのある職場づくりの重要性の理解を深めた。その後各参加企業の課題に精通した専門家による個別フォローアップを実施。フォローアップとしては、経営者からの要望により将来を担う若手社員を対象とした研修などを実施。参加者からは日頃の仕事に対する意識を見直さずきっかけとなったという感想もあった。採用担当者の方とマンツーマンでアドバイスをを行うことも重要だが、経営者や管理職の方も含めた会社全体で取組を進めることが必要。	

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	B	
子ども・子育て会議における意見等	—	・企業という社会全体の働き方に対する意識が変わらなければ「男女共同の子育て」は本格的には進まないのかなと思います。非常に難しいところですがWebの更新回数という指標では何とも言いようがないところもあります。 ・事業主や企業に対しては、イクボスを含めた、組織全体で従業員のワークライフバランスを支援できる意識改革のための予算措置が必要不可欠だと考えます。	この様な取組を行っている企業に対し、奈良市から分かりやすい方法で評価を与えて欲しいと思います。奈良市が認める「くるみんマーク」の様なものがあれば、これから働く場所を選ぶ人にとっても分かりやすいと思います。企業側にとっても、ある一定のレベルを達成しているとの評価を一般にも公表できる形態をとる事が望ましいと思います。	企業の働き方を変えるためには、何よりも経営者は管理職の意識改革が不可欠です。とはいえ、意識を変えるための研修は何度も実施する必要があります。予算・回数を増やして取り組んでもらいたい。	
意見等に対する対応状況	—	子ども・子育て会議の意見等を踏まえ、指標について見直しを行う。平成29年度からは、市内の企業を対象に、ワークライフバランスの啓発および研修会を開催する等、実務的な取り組みをサポートする事業を指標とする予定。	市独自の認定制度の予定はないが、具体的な改善策や取組内容、取組後の社内の状況や役員からのコメントなど、参加企業ごとのWLBに関する取組について総括し、webサイトやFacebookに掲載して情報発信している。データを各参加企業に提供し、社内での啓発にも活用していただいている。	企業の意識改革を促進するため継続的にセミナーを実施している。集合セミナーでは、働きがいのある職場づくりの重要性や現状の課題把握を行った。また個別訪問では、企業からの要望に対し、次世代リーダー向けのセミナー実施や有給休暇を取りやすい職場づくりに向けたアドバイスなど、企業ごとの課題に対しフォローアップを実施した。	

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	—	—	B	B	
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	—	—	—	—	
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—	—	—	—	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	110	事業名	通学路整備事業	部名	建設部	課名	道路建設課
事業内容	児童・生徒が安全で安心して通園・通学できるよう歩道の整備及び防護柵、路面標示等の安全施設を整備します。			指標	対策箇所数	平成26年度実績値	53
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) (繰越分 39,487) 77,187 千円	(予算) (繰越分 5,919) 102,864 千円	(予算) (繰越分 46,804) 77,204 千円	(予算) (繰越分 24,000) 65,400 千円	(予算) (繰越分 25,328) 75,328 千円
	(決算) (繰越分 39,486) 69,115 千円	(決算) (繰越分 5,918) 52,408 千円	(決算) (繰越分 46,804) 49,580 千円	(決算) (繰越分 24,000) 26,986 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 73	(目標) 61	(目標) 39	(目標) 38	(目標) 34
	(実績) 60	(実績) 59	(実績) 50	(実績) 43	(実績)
取り組み内容・成果等	通学路の緊急合同点検に基づき、要対策箇所73か所の内、60か所の対策を実施した。 平成28～31年度までの目標値については現在、教育総務課において通学路交通安全プログラムに基づく要対策箇所の現場確認をおこなっており、その取りまとめが完了後、箇所数を目標として設定することができるため、今は記入できない。	奈良市通学路交通安全プログラムに基づき、小学校区をA～Dの4ブロックに分け、平成27年度のA・Bブロックの小学校区の合同点検により確認した、要対策箇所61か所の内、59か所の対策を実施した。 残る2か所についても来年度に実施予定である。	奈良市通学路交通安全プログラムに基づき、小学校区をA～Dの4ブロックに分け、平成28年度のC・Dブロックの小学校区の合同点検により確認した、要対策箇所39か所の内、38か所及びH28年度できなかった、2か所の対策を実施した。H29年度に出来なかった、残る1か所についても、引き続き実施予定である。	奈良市通学路交通安全プログラムに基づき、小学校区をA～Dの4ブロックに分け、平成29年度のA・Bブロックの小学校区の合同点検により確認した、要対策箇所を含む49か所の内、43か所の対策を実施した。緊急合同点検の残る2か所についても来年度以降も継続して実施予定である。	
取り組みの方向性(課題・改善点等)	通学路の緊急合同点検に基づき、要対策箇所の残り13か所については早期に対策を実施する。 また、平成27年度策定予定の通学路交通安全プログラムに基づく要対策箇所についても対策を実施する。	通学路の緊急合同点検に基づき、要対策箇所の残り13か所については、今年度より継続的に着手しております。 また、奈良市通学路交通安全プログラムに基づく、C・Dブロックの小学校区の合同点検により確認した、平成29年度の要対策箇所39か所の対策についても随時実施する。	通学路の緊急合同点検に基づき、要対策箇所の残り13か所については、今年度10か所の対策が完了し、残り3か所についても引き続き着手してまいります。 また、奈良市通学路交通安全プログラムに基づくA・Bブロックの小学校区の合同点検により確認した、平成30年度の要対策箇所38か所の対策についても随時実施する。	通学路の緊急合同点検に基づき、要対策箇所の残り3か所、及び昨年度実施できなかった奈良市通学路交通安全プログラムに基づく要対策箇所の残り6か所についても、継続して対策を実施する。	

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A	A	A	A	
子ども・子育て会議における意見等	・通学路や公園については、子ども会議でも多くのニーズがあった。子ども会議からの提案も活かしながら、進めていただきたい。 ・早急の整備実施が必要なので、今後も継続してほしい。	・予算をしっかりと消化し、早期に実施してほしい。	—	キッズゾーンの整備も合わせて行っていく必要があると思います。  歩道のない通学路が存在し、また、交通量も多く、いつも不安を感じています。担当課の評価は「A」が並んでいますが、こうした問題をどの様にとらえているのでしょうか。何かがあつてから変わる事はよくありますが、危険を察知して前もって行動できる事が少ない様に思います。	
意見等に対する対応状況	・子ども達の意見が反映できるよう通学路交通安全プログラムに基づき、学校長・自治会長・PTA代表及び教育総務課と合同点検現場を確認している。 ・来年度も事業を継続し、安全確保のために引き続き通学路の整備を推進する。	・当初予算のうち工事費については、順調に消化できたが、用地買収に伴う交渉及び補償に不測の時間を要し、公有財産購入費等を繰越した。ご指摘どおり、工事だけではなく速やかに用地を買収するために用地交渉も早期に着手する。	—	・キッズゾーンについては、奈良市では現在無いと認識しています。通学路の歩道の確保についてはですが道路の幅員が不足していることなど早急に整備できない場合もございます。現在は、通学路交通安全プログラムに基づき、学校長・自治会長・PTA代表・警察・教育総務課と共に新たに危険が指摘された箇所を現場で確認をし通学路の安全性の向上を目指して整備を進めています。	

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C	C	C	C	
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C	C	C	C	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	111	事業名	公園管理運営	部名	都市整備部	課名	公園緑地課
事業内容	身近な自然とのふれあいの場所、防災空間、良好な風致・景観を備えた地域の形成等、多くの機能を有している公園・緑地の維持管理を行います。			指標	管理する公園などの数	平成26年度実績値	688
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	193,995 千円	(予算)	180,210 千円	(予算)	186,809 千円	(予算)	217,689 千円	(予算)	237,960 千円
	(決算)	192,118 千円	(決算)	176,265 千円	(決算)	184,757 千円	(決算)	221,216 千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	688	(目標)	688	(目標)	708	(目標)	708	(目標)	708
	(実績)	688	(実績)	708	(実績)	710	(実績)	707	(実績)	千円
取り組み内容・成果等	公園の安全・安心の確保を図るため、除草・剪定による都市公園や緑地の維持管理及び遊具の改修や安全点検に努める。		公園・緑地等を安全・安心で快適な状態に保つために、除草や樹木の剪定及び遊具の安全点検・改修など行い維持管理に努めた。		公園の安全・安心の確保を図るため、清掃・除草・樹木剪定撤去による都市公園の維持管理及び遊具の改修や安全点検に努めた。		公園・緑地等の安全・安心の確保を図るため、清掃・除草・樹木の剪定撤去による維持管理及び遊具の修繕や日常点検に努めた。			
取り組みの方向性(課題・改善点等)	公園施設の状況を的確に把握し、安全性の向上に努める。日ごろからの安全点検で遊具の事故が発生しない安全な公園施設を目指す。また、更なる公園の遊具の安全確保を強化するためにも、地域住民とともに安全意識の向上に努める。		年々管理する公園数が増加することから、維持管理するために必要な財源を確保する必要がある。日ごろからの安全点検で遊具の事故が発生しない安全な公園施設を目指す。また、更なる公園の遊具の安全確保を強化するためにも、地域住民とともに安全意識の向上に努める。		公園施設の状況を的確に把握し、地域住民とともに安全性の向上に努めて、日ごろの安全点検で遊具の事故が発生しない安全な公園施設を目指す。予算の都合上、十分な対応ができないことのないように、予算の確保や公園の遊具等の安全確保に努める。		公園施設の日常点検及び地域住民からの要望や情報等により公園施設の状況を的確に把握し、安全性の向上に努め、地域住民とともに遊具の事故や発生しない安全な公園施設を目指す。また、予算の都合上、十分な対応ができないことのないように、予算の確保や公園の遊具等の安全確保に努める。			

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	B	
子ども・子育て会議における意見等	<p>・通学路や公園については、子ども会議でも多くのニーズがあった。子ども会議からの提案も活かしながら、進めていただきたい。</p> <p>・老朽化した遊具での事故は、信頼を失い、利用者を減らす原因となるので、安全の確保に努めてほしい。</p>	<p>・児童公園では草刈が年2回しか行われず(以前は3回)、草が伸び放題となっている期間が長く、公園としての体をなしていない。保育所などでは、子どものお散歩コースとして活用しているところもあり、最低でも年3回は必要と考える。</p> <p>・園・学校の時間外の子どもの居場所づくりは大切な問題。子どもが安全に外で遊べる場所が不足していると思います。遊具等の維持管理に費用がかかるのならば、一定数撤去しても良いとも思えます。ただの広場であっても子どもたちは自由な発想で遊びますから、安全に遊べる広い場所を確保して頂ければと思います。</p>	<p>草刈りが年3回から2回に減ってしまったのは、子どもの居場所作り、防犯上も含めて大変問題があると思います。最近、草刈りが出来ない庭や場所に、レンガや小石を敷き詰めたり、ヒメイワダレソウの様な、草刈りの要らないグリーンカバーが存在しています。環境整備は、草刈りの方法だけではないと思います。新しい方法も含めて検討する必要性を感じます。</p> <p>他府県から移ってきた方に、よく「奈良は子どもが遊べる公園が少ない」といわれる。実際、公園はあるが不審者がでるといふ噂あったり、せつかく広い敷地があるのに鍵がかかったままであったりで使用できないなどの声を聞く。高価な遊具を置く必要はないが、子どもたちを安心して遊ばせることのできる場所があることも、過ごしやすい街づくりに必要な条件ではないか。ただ、犬の糞の始末をしないと、マナーの悪い人は多いと想像がつくので、利用については、厳しいルール作りが必要かと思う。</p> <p>奈良旧市街付近に子供を安心して遊ばせることのできる公園が少ないです。公園そのものが少ないのと、遊具がなかったり、メンテナンスがされていない状況です。</p>	<p>年数回草刈り作業をして頂き、その後2週間程度は大変美しくなりますが、夏場は特にすぐに雑草が生えて遊びづらくなる状態です。草の中に踏み入って遊んでいる様子を目にします。清浄回数を増やして頂ければ、もっと多くの子どもや地域の方が利用しやすく、安全・安心のコミュニティとしての役割を充実できるのではないのでしょうか。</p>	

意見等に対する対応状況	<p>供用後、相当の年数を経過した公園も多くあり、特に遊具における安全面の低下を招くことがないように財政的な対応も含めて安全の確保に努める。</p>	<p>除草については以前のような年3回の実施は、予算上厳しい。公園は子どもたちの健全育成を図るために設置してあります。安全に公園を利用していただけよう維持管理に努める。</p>	<p>厳しい予算の中で除草については年2回の対応しかできていない状況であるが、地元グリーンサポートさんや公園ボランティアさんのご協力も得ながら公園の維持管理に努めています。また、限られた財源を工夫しながら効果的に投資し、市民の皆様ニーズに応えられるように公園整備に努めています。</p> <p>奈良市の管理する都市公園は大小合わせて570箇所あり、市民の皆様が安全に公園を利用していただけよう奈良市都市公園条例を定め、維持管理に努めているところであるが、マナーの悪い方については地域の皆様と相談しながら、看板設置等の注意喚起を実施しています。</p> <p>奈良市の管理する公園の遊具については、国の補助金を活用して損傷の激しいものから順次入替えを実施しています。また、予算の範囲内で遊具の修繕対応を実施しています。今後も市民の皆様が安全・安心して遊べる遊具の設置に努めます。</p>	<p>除草については、年2回の対応をしているところですが、予算上これ以上増やすことは厳しい状況である。中でも地元グリーンサポートさんや公園ボランティアさんのご協力も得ながら、市民の皆さまに安全・安心して公園を利用していただけよう公園の維持管理に努めています。</p>	
-------------	--	--	--	---	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B	B	B	B	
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B	B	B	B	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	112	事業名	公園整備事業	部名	都市整備部	課名	公園緑地課
事業内容	都市公園の経年劣化による遊具等の公園施設の施設の改修を行います。			指標	公園施設長寿命化計画に基づき危険度判定C、Dの施設について更新した遊具数	平成26年度実績値	40
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	35,052 千円	(予算)	40,146 千円	(予算)	(繰越分 40,146) 千円 62,146	(予算)	(繰越分 6,300) 千円 46,300	(予算)	(繰越分 9,633) 千円 49,633
	(決算)	35,052 千円	(決算)	0 千円	(決算)	(繰越分 40,146) 千円 55,408	(決算)	(繰越分 4,990) 千円 27,483	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	3	(目標)	8	(目標)	16	(目標)	20	(目標)	20
	(実績)	3	(実績)	0	(実績)	46	(実績)	24	(実績)	
取り組み内容・成果等	公園長寿命化計画策定業務を完了した。		公園長寿命化計画にもとづき遊具35基更新を計画したが、地元との協議に不足の日数を要したため、次年度に繰越となり平成29年度早期に完了する予定。		平成28年度繰越分について38基の遊具の更新を完了した。平成29年度現年分について8基の遊具の更新を完了した。引き続き、公園施設長寿命化計画に基づき老朽化した遊具の更新を実施する。		平成29年度繰越分について11基の遊具の更新を完了した。平成30年度現年分について13基の遊具の更新を完了した。引き続き、公園施設長寿命化計画に基づき老朽化した遊具の更新を実施する。			
取り組みの方向性(課題・改善点等)	長寿命化計画に基づき危険度判定Dの公園施設について順次改修を行っていく。		長寿命化計画に基づき危険度判定C、Dの公園施設について順次改修を行っていく。		長寿命化計画に基づき危険度判定C、Dの遊具について順次改修を行っていく。		長寿命化計画に基づき危険度判定C、Dの遊具について順次改修を行っていく。			

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	B	
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学路や公園については、子ども会議でも多くのニーズがあった。子ども会議からの提案も活かしながら、進めていきたい。</li> <li>安全点検は、実際に使用している子どもの保護者にも協力を要請し、どの公園でどんな改修が必要かを早期に把握できるように取り組みが大切かと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市公園の遊具改修や、施設整備等は、子どもの遊び場を確保するためにも非常に重要な取り組みです。ぜひ、前倒しですべての施設を早期に改修してください。</li> <li>公園利用者への告知はしているのだろうか。利用者との協働が必要では。</li> <li>園・学校の時間外の子どもの居場所づくりは大切な問題。子どもが安全に外で遊べる場所が不足していると思います。遊具等の維持管理に費用がかかるのならば、一定数撤去しても良いとも思えます。ただの広場であっても子どもたちは自由な発想で遊びますから、安全に遊べる広い場所を確保して頂ければと思います。</li> </ul>	<p>公園を子どもの居場所と位置付けると非常に重要で確保が必要になる。そこにリスクがあると安心して遊ぶことができない。リスクがあるならば早急に改修、撤収すべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「市公園の経年劣化による遊具等の公園施設の施設の改修を行います。」</li> <li>子供達の遊び場が少ないので、公園でボール遊びもできるようにして欲しいという「子ども会議」での提案がありました。どのように検討されているのでしょうか？</li> <li>公園の遊具等の管理をされていますが、遊具については子供の遊具だけでなく高齢者の健康増進用遊具の設置によって、高齢者が公園で遊ぶ子供たちの安心安全の見守りができるので、地域住民も公園整備にも協力をえることができる。</li> <li>今はどこの児童公園も遊具が撤去され、ボール遊びが禁止されて、子どもたちや子育て家庭の安全な居場所になっているとは言えません。</li> <li>子どもだけのものではなく、地域の誰もが交流して、活用できる場になるような、新しい発想の公園があちこちでできれば、地域の活性化にもつながり、こどもにやさしいまちになるのではないかと思います。</li> </ul>	

意見等に対する対応状況	<p>子どもの保護者や自治会からの情報提供と長寿化計画に基づき調査した結果を照らし合わせ危険度判定Dの公園施設について順次改修を行っていく。</p>	<p>長寿化計画に基づき順次改修を行っています。遊具等の改修時は事前に地元自治会と調整を行い実施しています。その際に利用頻度の低い遊具等は改修を行わず撤去することも検討します。</p>	<p>公園は子どもたちの健全育成を図るために設置しています。安全・安心して公園の遊具で遊んでいただけるよう長寿化計画に基づき順次改修を実施しています。また、公園施設日常点検も行いながら、リスクの高い公園施設の把握に努め、修繕及び撤去の対応を検討します。</p>	<p>公園でのボール遊びについては、ボール遊びができる公園として地域の皆さんの理解が得られるよう地域の自治会・子どもたち・市が一緒にルール作りを進めていくことが必要である。</p> <p>遊具の設置については、長寿化事業による遊具の更新を実施している。しかしながら、地域住民との調整が必要であるが、既存遊具とは異なる健康遊具の設置も可能であるので、利用者ニーズの把握に努めながら健康増進等を図れる公園の整備を進めます。</p> <p>公園で安全・安心して遊んでいただけるよう遊具の日常点検等を実施し、遊具の修繕等に努めています。また、長寿化計画に基づき、順次改修を行っています。地元自治会とも調整を行いながら、利用頻度が低い遊具等は改修を行わず、撤去している場合もあります。</p> <p>平成30年度奈良市子ども会議の提案については、新しい公園の在り方を考えることから、現在、プロジェクトチームを作り、2～3ヶ月に一度「まちの食卓」というイベントを開催しています。イベント時限定ではありませんが、遊具を置いたり、キッチンカーを呼ぶ等、子ども会議で出した提案も取り入れながら、公園の中央に大きな食卓を置いて小さい子どもからお年寄りまで幅広い世代が集まれる環境を作り、公園に対する関心を深めてもらい、これからの公園の使い方や過ごし方について意見を出し合えるような新しい取組みを試験的に始めます。</p>	
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B	B	B	B	
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B	C	B	B	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	113	事業名	公共賃貸住宅における多子世帯向けの優先入居制度の活用	部名	都市整備部	課名	住宅課
事業内容	市営住宅の3DK若しくは3LDKの空家募集において、18歳未満の児童が3人以上いる世帯（多子世帯）に対する優先入居制度を実施します。			指標	多子世帯向け住宅の新規募集件数（4件）	平成26年度実績値	1
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) ー 千円	(予算) ー 千円	(予算) ー 千円	(予算) ー 千円	(予算) 10,000 千円
	(決算) ー 千円	(決算) ー 千円	(決算) ー 千円	(決算) ー 千円	(決算) ー 千円
目標値と実績値	(目標) ー	(目標) ー	(目標) ー	(目標) ー	(目標) 4
	(実績) 1	(実績) 1	(実績) 0	(実績) 1	(実績) ー
取り組み内容・成果等	多子世帯向けとして1件空家募集し、1件入居した。予算・決算額については、一般向け住宅及び特定目的住宅の空家修繕費に含まれるため、多子世帯向け住宅として個別で計上していない。空家募集については、過去の応募状況等を参考に、多子世帯向けを含めた特定目的住宅の募集戸数をその都度検討するため、目標値は定めていない。	多子世帯向けとして1件空家募集し、1件入居した。予算・決算額については、一般向け住宅及び特定目的住宅の空家修繕費に含まれるため、多子世帯向け住宅として個別で計上していない。空家募集については、過去の応募状況等を参考に、多子世帯向けを含めた特定目的住宅の募集戸数をその都度検討するため、目標値は定めていない。	多子世帯向けとして平成29年度は募集していない。予算・決算額については、一般向け住宅及び特定目的住宅の空家修繕費に含まれるため、多子世帯向け住宅として個別で計上していない。空家募集については、過去の応募状況等を参考に、多子世帯向けを含めた特定目的住宅の募集戸数をその都度検討するため、目標値は定めていない。	多子世帯向けとして1件空家募集し、1件入居した。予算・決算額については、一般向け住宅及び特定目的住宅の空家修繕費に含まれるため、多子世帯向け住宅として個別で計上していない。空家募集については、過去の応募状況等を参考に、多子世帯向けを含めた特定目的住宅の募集戸数をその都度検討するため、目標値は定めていない。	
取り組みの方向性（課題・改善点等）	今後も現行の取り組み方針を継続する。	今後も現行の取り組み方針を継続する。	今後も現行の取り組み方針を継続する。	今後も現行の取り組み方針を継続する。	

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	B	
子ども・子育て会議における意見等	・空家募集の広報活動を強化し、より多くの方々に知ってもらえるよう、引き続き取り進めてほしい。	・需要のある世帯に対して、こういった制度があることがどれくらい周知されているのかという点があると思います。	ー	ー	
意見等に対する対応状況	・既存のしみんだよりやホームページ・子育て世帯向け冊子等による広報に加えて、さらなる広報活動を検討し、今後も現行の取り組みを継続する。	より充実した事業となるよう、福祉部局等他課とも連携しながら周知に努めます。	ー	ー	

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A	A	A	A	
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	ー	ー	ー	ー	
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	ー	ー	ー	ー	

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	114	事業名	公共賃貸住宅における子育て世帯向けの優先入居制度の活用	部名	都市整備部	課名	住宅課
事業内容	市営住宅の空家募集において、同居親族に小学校就学前の児童がいる世帯（子育て世帯）に対する優先入居制度を実施します。			指標	子育て世帯向け住宅の新規募集件数（6件）	平成26年度実績値	20
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 26,000 千円	(予算) 15,600 千円	(予算) 13,000 千円	(予算) 13,000 千円	(予算) 7,800 千円
	(決算) 25,429 千円	(決算) 15,015 千円	(決算) 12,858 千円	(決算) 12,884 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 20	(目標) 12	(目標) 10	(目標) 10	(目標) 6
	(実績) 22	(実績) 12	(実績) 11	(実績) 11	(実績)
取り組み内容・成果等	子育て世帯向けとして22件空家募集し、20件入居した。	子育て世帯向けとして12件空家募集し、12件入居した。	子育て世帯向けとして11件空家募集し、11件入居した。	子育て世帯向けとして11件空家募集し、9件入居した。	
取り組みの方向性(課題・改善点等)	22件中2件については、募集したにも関わらず応募がなかった。今後は、子育て世帯の需要をより見極め、募集住宅を選定する。	12件中3件については、当該募集月では応募がなく、次回以降の募集等で入居した。今後は、子育て世帯の需要をより見極め、募集住宅を選定する。	11件中11件全て入居した。今後も子育て世帯の需要をより見極め、募集住宅を選定する。	11件中2件については、募集したにも関わらず応募がなかった。今後も、子育て世帯の需要をより見極め、募集住宅を選定する。	

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B	B	B	B	
子ども・子育て会議における意見等	・空家募集の広報活動を強化し、より多くの方々に知ってもらえるよう、引き続き取り進めてほしい。 ・民間賃貸住宅の活用による家賃補助制度への転換を検討すべきではないか。住居費の負担は大きいものの財政負担も大きいのが、出生率のアップや人口増にもつながるのではないかと。	・需要のある世帯に対して、こういった制度があることがどれくらい周知されているのかという点があると思います。 ・親の通勤、子の通学等の関係から引越までして生活圏域を変更するにはマイナス面も多く使い勝手が悪い。他市町村のように民間の賃貸住宅も活用し思い切って家賃補助制度への転換を検討すべき。住居費の負担は大きいものの財政負担も大きいのが、出生率のアップや人口増にもつながり、将来的には税収増につながられるのでは。本計画、本条例の理念にも合致し、子育てしやすいまち奈良市のシンボリックな事業となる可能性があると考えます。	子育てしやすい町 奈良をアピールするには、より良い住宅環境を求める子育て世代に積極的に知らせる必要がある事業です。今あるものを、積極的に活用でき、宣伝もしやすい事業ではないでしょうか。今後は、内容、数ともに充実させ、積極的に活動を行って欲しいです。	-	
意見等に対する対応状況	・既存のしみんだよりやホームページ・子育て世帯向け冊子等による広報に加えて、さらなる広報活動を検討し、今後も現行の取り組みを継続する。 ・民間賃貸住宅の活用による家賃補助制度への転換を検討する。	現行の事業を継続しつつ、民間の賃貸住宅の活用については、奈良県が補助する特定優良賃貸住宅や、平成29年度から開始された「新たな住宅セーフティネット」等についても福祉部局と連携して周知します。	既存のしみんだよりやホームページ・子育て世帯向け冊子等による広報に加えて、さらなる積極的な広報活動を検討し、今後も現行の取り組みを継続します。	-	

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A	A	A	A	
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A	A	A	A	
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	-	-	-	-	